



「ほっとルーム」だより

第197号 令和7年1月8日発行
いちき串木野市家庭教育支援連絡協議会
(子どもみらい課内 TEL 33-5618)

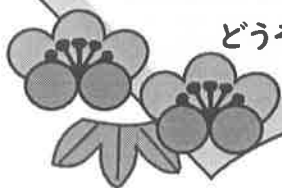
あけましておめでとうございます

新しい年、令和7年は巳年です。

脱皮しながら成長する巳(へび)のように、子どもたちや
皆様が飛躍する年になりますよう、お祈り申し上げます。

保護者の皆様には旧年中、長子家庭訪問やアンケート調査等、
たくさんのご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

今年も家庭教育(子育て)について、保護者の皆様のお力に
なれるよう、支援員一同、努めてまいりますので、
どうぞよろしくお願いいたします。



3回目の長子家庭訪問を始めます

1学期から始めた1年生長子家庭訪問ですが、3回目の訪問を1月中旬頃から
計画しています。お子さんの様子や子育てについての想いを、お聴かせください。

訪問の希望日時等がありましたらお受けいたしますので、ご連絡ください。

また、電話相談もお受けしています。(子どもみらい課内「ほっとルーム」TEL:33-5654)

12月5日(木) 照島小学校でおあしすを 開設しました

PTA前後のお忙しい時間にもかかわらず、
お立ち寄りくださった保護者の皆さま、ありが
うございました。

照島小学校では3学期にも開設予定です。
皆さまのお越しをお待ちしております。

開設の案内がありましたら
ぜひお立ち寄りください!

子ども会大会に参加しました

旭地区・荒川地区子ども会の活動発表やジ
ュニア・リーダークラブによる体験発表がありまし
た。地域の方々に支えられた様々な体験活動
や、ジュニア・リーダークラブでの活動が、子ども
たちの自己肯定感を高めていることを学ぶこと
ができ、子ども会活動等に参加することの大切
さを改めて感じました。

いちき串木野市では、
「あい」が「いっばいあいさつ運動」に
取り組んでいます

~ほっとルーム~
(子どもみらい課内)

子育ての中で、気になること等ありましたら、一人で悩まず、
いつでも気軽に相談ください。一緒に語りましょう。

TEL : 33-5654

FAX : 32-3124

雨にぬれたえがお

鹿児島市立喜入小学校 二年

小窪 蒼士



ゴールデンウィークに、かぞくでJリーグの試合を見に行きました。ぼくは、サッカーが大好きなので、前の日からわくわくしていました。でも、この日は雨がふったりやんだりするいやな天気でした。しかも、ちゅう車じょうが空いていなくて、とおくから歩くことになりました。だから、スタジアムについたときにはつかれていました。雨の日は、かつばをきておうえんします。かさをさすと、うしろでおうえんしている人が見えないからです。

ぼくは、早くすわりたいし、雨にぬれるのもいやで、いそいでかつばをきたいと思っていました。それなのに、かつばがからまってうでが出せません。「し合がはじまっちゃう。」と思うと、ますますうまくきることができずにいらしてきました。お母さんにたずねてもらおうと思つたら、ぐずぐずとないでいるおとうこのおせいで大へんそつです。「かしてらな。」

うしろから、きゅうに手がのびてきました。知らないおばちゃんか、かつばのそでをひっぱってくれたのです。よこにいた妹にも、かつばをきせてくれました。それだけではありません。



「おしりがぬれちゃつから、ちよつとまてね。」

と言って、雨でぬれたいすを自分のタオルでふいてくれました。たのんでいないのに、ささつといういろいろなことをしてくれるので、ぼくはびっくりしていました。

「ありがとございます。」

し合がはじまったので、おれいを言つてすわりました。

休けい中に後ろを見ると、さっきのおばちゃんと目が合いました。ぼくは、にこつとわらつてくれたおばちゃんのかおを見て、はつとしました。雨でぬれていたからです。ぼくは、雨がかかるたびにタオルでふいたけれど、おばちゃんはふけないのかもしれない。ぼくのいすをふいたから、タオルがびしょびしょなんだ。そう思うと、ごめんなさいの気もちとおばちゃんのやさしさが、さらに大きくかんじ、心がざわざわしました。「どうしよう。おばちゃんにタオルをわたしてあげたいな。こえをかけようかな。でも、はずかしいな。」ぼくがまよっている間に、時間がすぎていきました。

この日のサッカーは、せん手のかつこいプレーよりも、おばちゃんのにこにこのえがおが、一ばんの思い出です。

ぼくは、こまっている人に出会つたらたずねてあげられるかな。知らんぷりしてしまうかもしれないし、うまくできないかもしれない。でも、おばちゃんのやさしいえがおを思い出すとゆう気を出せると思います。これからは、こまっている人にごえをかけてみたいと思います。たずねてもらつと、どんな気もちになるか、ぼくは知っているからです。